

豚熱抗体検査法の比較と活用方法の検討：岡山県岡山 家保家畜病性鑑定課 梯 洋介

飼養豚の豚熱発生予防には豚熱ワクチンによる免疫獲得状況と子豚の移行抗体保有状況の迅速かつ正確な判定が必要。中和試験はELISAと比較し定量性及び検出感度は良いが判定まで時間を要するため、今回、豚血清252検体を用いて、中和抗体価（以下抗体価）を基準としたA社及びB社製のELISAの特異度及び定量精度を比較し、中和試験代替法としての活用法を検討。特異度は、A社は陰性のうち抗体価1倍未満の検体は57.5%だったが、B社は79.2%とB社が良好。定量精度は、2社のELISA結果と抗体価との線形回帰分析をそれぞれ実施、決定係数を比較。A社の0.835に対しB社は0.558と低かった。以上の結果から、特異度はB社、定量精度はA社が良好なため、抗体陽性率を求める場合はB社、子豚の移行抗体保有状況を迅速に判断する場合はA社を使用するなどの使い分けによる活用が重要。